

ポスター番号4

研究発表

中国人3歳児の幼稚園生活への適応過程に関する事例研究

李如意 (京都教育大学大学院)

1. 研究の目的

本論は3歳の中国人幼児が日本の幼稚園生活に適応する過程を日本語の習得を中心に明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究

外国人幼児の幼稚園や保育所における適応過程に関する研究には宮川・中西(1994)、柴山(1995、2002)、越中・前田(2003)、管田(2006)等がある。それらの先行研究は外国人幼児が母国で集団生活の経験を持った上で、日本の保育施設に彼らがどのように適応したかを分析したものである。また大人(保育者等)の働きかけについてはあまり言及がない。

3. 研究方法

近畿地方のある公立幼稚園に協力を依頼し、2人の中国人幼児の在籍する3歳児クラスで参与観察を行った。

データ収集はマイクロ・エスノグラフィー法を用いた(箕浦1999)。観察期間は2018年4月から2019年2月である。参与観察の際に研究者本人(以下、L)は保育の補助者として4月から7月末まで週2回、9月から翌年2月末まで週1回、フィールドに参加した。フィールドでは積極的に子どもに関わり、対象児及び彼らの周りでおこった状況を観察し、気になった所をその日の保育の後でフィールドノートとして書き留めた。

観察対象は3歳児クラスに入園した中国人男児Aと中国人女児Bである。ともに現在日本の会社に勤めている中国人の父親を持ち、幼稚園に入園するまでは母親と日本と中国を往復する生活を過ごしていた。この幼稚園に入園するまで日本でも中国でも集団生活を体験したことがない。Bは6月下旬から8月下旬まで中国に一時帰国したため、休園した。

参与観察に先立って、幼稚園と対象児の保護者に説明し、研究協力を得た。

4. 結果と考察

4.1 Aの日本語習得過程

Aの場合、周囲の子どもとの関係が日本語習得の前提になっている。Aが集団に参加できるようになる過程をみる。

日付	エピソード
5/15	滑り台を反対方向からのぼったことを注意されたので、Lが中国語で説明したが、Aは反応せずに他のグループの担任Kのところに行き、Kの服を掴んだ。
6/29	担任Oが他児と戦いごっこをしているのを見かけ、Aが参加した。楽しく遊び、Oが「戦いごっこは終わり」と言ってもやめようとしないAが見られた。(大人を中心に集団遊びに参加)
6/29	男児Mがままごとで遊んでいたとき、Aがままごとの横にある積み木をMに運んであげたり、Mに積み木を押し付けたりした(積極的に他児に関わる)

7/10	砂場で大人がいないのにAが男児P、男児Rと一緒に遊ぶ姿が見られた。(大人がいなくても他児と遊び)
7/20	(担任Kから聞いた話) お茶のかわりを欲しがった他児の何人が担任に「お茶ください」と言い、Aも真似して「お茶ください」と話した。
9/14	遊戯室で人形劇を全園児と未就園児で20分以上見た。 (集団活動にはじめて最後まで参加)
10/9	トイレに行こうとしたAに担任Oが「どうしたの?」と聞き、Aが「おしっこ」と返事
10/23	(お化けゲームをした場面) Aがかばん掛けの後ろに隠れ、お化けの役をしている担任OがAに近づいたとき、Aが笑いながら「きたきたきた」と言った。

(太字は日本語の産出に関わるエピソード、〈 〉はエピソードの解釈)

Aの発話した日本語はいずれも周囲の園児のことばを聞いて習得したのではないかと思われる。日本語習得ができたのは周囲との関係ができたからである。6月29日に担任を中心にした遊びに参加できたことが他児との関係を作るきっかけになったと思われる。

#### 4.2 Bの日本語習得過程

Aが子どもとの関係性を中心に日本語を習得したと思われるのに対し、Bは大人に依存した関係を構築している。Lが幼稚園にいる時は7割以上の時間Lと一緒にいる。Lが幼稚園にいない時は事務室で事務職員Mと過ごしているか、担任と一緒にいる。大人がいない時、ことばが通じるA以外の子どもと一緒にいることはあまり見られない。

Aも日本語を産出しているが、例えば、「ありがとうございます」「おいしそう」「XX君、すごい」「えらい」等、大人が口癖として普段話していることばである。

#### 5. 結論

AもBも人間関係を前提に日本語を習得していることが分かったが、人間関係の在り方によって習得の過程は異なる。A、Bそれぞれに対して違う支援が必要である。Aに対しては担任が中心になって他児と関わるような環境を作ってあげることが大切である。Bに対してはBのやりたいことに大人が付き合っただけながら他児と関わらせることが重要である。

どちらの場合も、①保育者が温かい態度で積極的に働きかける、②幼児の好きなものを整える、③日本語を使わず体を動かして楽しめる運動系の遊び等が関係づくりに有用だった。

#### 【参考文献】

- 越中康治・前田健一 (2003) 「モンゴル人幼児の異文化適応に関する研究」『広島大学心理学研究』第3号、pp. 127-136
- 管田貴子 (2006) 「外国籍幼児の保育所への適応過程に関する研究—留学生家族の子どもの事例から見えてくるもの—」『保育学研究』第44巻第2号、pp. 104-113
- 柴山真琴 (1995) 「ある中国人5歳児の保育園スク립ト獲得過程—事例研究から見えてきたもの」『乳幼児教育学研究』第4号、pp. 47-55
- 柴山真琴 (2002) 「幼児の異文化適応過程に関する一考察—中国人5歳児の保育園への参加過程の関係論的分析—」『乳幼児教育学研究』第11号、pp. 69-80
- 箕浦康子 (1999) 『フィールドワークの技法と実際—マイクロ・エスノグラフィー入門—』ミネルヴァ書房
- 宮川充司・中西由里 (1994) 「日系ブラジル人幼児の異文化適応に関する事例的研究 (II)」『椋山女学園大学研究論集人文科学篇』第25号、pp. 75-84